

学術交流協定校ご担当者様

福井大学交換留学プログラム A 及び B への出願手続きと留学につきまして、特にご注意いただきたい点を以下のとおりご案内いたします。

1) 今後のスケジュール (スケジュールは、変更となる可能性があります)

被推薦者名簿の提出 (メール提出)	2025年2月14日 (金) ~2025年3月7日 (金) 締切厳守 (日本時間 24:00 まで)
応募書類の提出 (オンライン申請)	2025年3月14日 (金) ~2025年4月4日 (金) 締切厳守 (日本時間 24:00 まで)
受入可否の結果通知	2025年6月中旬
在留資格認定証明書の送付	2025年8月中旬
学生ビザの申請 (申請者自身が手配)	2025年8月中旬~9月中旬
日本語プレイスメント受験 (オンライン)	2025年9月上旬~中旬
渡日 (大学寮入寮日) *1	2025年9月24日 (水)、25日 (木)
オリエンテーション*2	2025年9月26日 (金)、29日 (月)、30日 (火)

*1 入国する日については最新の情報を適宜確認し、各自調整してください。

*2 オリエンテーションの日程や実施方法が変更となる場合があります。

2) 応募書類の提出方法について

被推薦者名簿を除く応募書類の提出は、システム上での申請となります。被推薦者名簿をメールにてご提出いただいた後、別途システムについてご案内をさせていただきます。

応募書類データは、在籍大学の担当者から以下のメールアドレスに提出してください。データ提出から 1 週間以内にデータ受領の確認メールが届かない場合はご連絡ください。

学生本人からの提出は受け付けません。また応募書類の様式は、毎学期更新しているため、最新のものを使用してください。

★提出先：inbound@ml.u-fukui.ac.jp

3) 協定および覚書による交換可能な留学生数について

学術交流協定および学生の交流に関する覚書等によって相互に交換する留学生の人数を定めておりますが、これについては1年間 (福井大学では2学期間) 留学をする人数と解釈します。つまり、年間3人の場合、学期数の換算では、6学期分の学生を受け入れることが可能です。また、1学期中には最大3人までの受入が可能です (例：春4人、秋2人は不可)。ただし、寮の部屋数に限りがあることや、本学外国人留学生の受け入れの方針の変更等により、**これまでの交換留学の貸借バランスに大きな偏りがある大学については受入人数を制限する可能性がありますので、ご了承ください。**

4) 福井大学留学中の在籍について

福井大学交換留学プログラムに参加している間、学生は**貴学の正規生として在籍している必要があります。**留学中に貴学を卒業したり学位を取得したりすることはできません。卒業または学位取得をする場合は、必ず留学期間終了時より後に手続きを行ってください。また、原則として留学期間中の休学も認められません。これは、後述の

JASSO 奨学金の受給にも関わります。

5) 単位取得証明書（成績証明書）の発行について

特別聴講学生として福井大学に入学する交換留学生には、福井大学で修得した単位について単位修得証明書（成績証明書）を発行します。証明書の発行時期は、前期（春学期）終了の場合通常 10 月下旬、後期（秋学期）終了の場合通常 4 月下旬で、各大学のご担当者様宛てに送付いたします。そのため、単位認定の手続きなどでこの時期よりも早く証明書が必要な場合は、学生本人からの申請だけではなく、在籍大学からの申請も必要です。早期発行の申請があった場合でも、それぞれ 9 月下旬、4 月上旬が最短となります。単位修得証明書が必要な時期を、あらかじめご担当者様から学生にお知らせください。

6) JASSO 奨学金および単位互換（認定）の結果報告について

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度：協定受入（交換留学プログラムに参加する、受給要件を満たす留学生に、月額 80,000 円の奨学金が支給される制度）へ申請した結果、2025 年度は Program B が受給対象プログラムとして採択されました。対象学生には、在籍大学の担当者を通して通知します。

なお、この奨学金に応募するためには、直近 1 年間の成績評価係数（GPA）が、3.0 スケールで 2.30 以上（詳細は、ガイドブックの 3 ページを参照）あることが原則条件となります。

7) バディ制度について

福井大学では外国人留学生に対し、渡日してから半年間はバディを割り当てています。バディは、生活面・修学面に関する課外援助活動を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的としています。留学生の渡日前からバディ学生とのマッチングを行っており、学生同士の国際理解、国際教育への関心を養う機会となっています。